

令和3年度

事業計画書

学校法人 常葉大学

目 次

1. はじめに	1
2. 重点事業計画	2
3. 管理・運営計画	3
4. 財務計画	5
5. 施設・設備整備計画	6
6. 教育活動計画	7

1. はじめに より高きを目指して～Learning for Life～

理事長 木 宮 健 二

令和元年の暮れに中国・武漢市で確認された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、瞬く間に全世界に広がり、感染者数は全世界で1億1千3百万人、わが国においても43万人を突破する(いずれも令和3年2月末時点)という爆発的な感染力によって、私たちの社会・経済生活に大きな混乱を及ぼしているのはご承知のとおりです。

令和2年は、出生数が約87万人と大幅に減少し、少子化は一般的な想定より一気に10年も前倒しで進みました。加えて婚姻数の下振れも招いており、このまま推移すれば、令和3年以降の出生数はさらに減少する可能性もあります。少子化や婚姻数の下振れは、地域によってその濃淡があるとは言え、本法人にとっても中長期的に大きな打撃となることは間違いありません。

さらに、コロナの影響は、高校生の志望大学に大きな変化をもたらすこととなりました。2月時点での中間的な志願者数ではありますが、多くの大規模私立大学の志願者が減少したようです。その一因は、首都圏など都市部での感染不安のため大都市の大規模大学では、遠隔授業が中心となりクラブ・サークル活動や学生仲間との交流など実質的な大学生活ができないこと、アルバイト先の縮小などによって学費や一人暮らしによる生活費の懸念などにあると思われます。今後は、遠くの大学より地元の大学が選択されるのではないかとされていますが、コロナ終息後にそのような構造的変化が続くかは不透明な状況です。

昨年春の緊急事態宣言が出された際に、従来から本学で実施されている学業優秀者に対する減免制度、奨学金制度に加え、遠隔授業への通信環境の補助として本学独自の特別修学支援金(学生1人につき5万円、法人としては、約4億円)及び大学・短大同窓会や教職員からの寄付金による奨学金事業も実施しました。地域との密接にかかわりを持つ「地域の学園」を掲げている本法人においては、対面授業を基本としておりますが、十分な感染症対策を施した上で、小中高においては昨年5月の緊急事態宣言解除後は、全面的に対面授業を開始し、また、大学、短期大学においては後期よりそれぞれ81.9%、96.7%の割合で対面授業を実施しました。ICT 機器は、あくまで対面を補完・強化することを目的としており、今後も社会の様々な変化に対応した教育観をもって取り組んでまいります。

幸いにも、法人内の各学校(園)におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じたきめ細かな予防対策を講じて学校運営を行った結果、各学校(園)の諸活動が原因となるクラスターの発生を未然に封じ込めることができております。

新型コロナウイルス感染症が終息する見通しは全くもって不透明ではありますが、今後も引き続き万全な感染予防対策を講じながら、良質な教育サービスの提供に努めて参ります。

2. 重点事業計画

本法人における重点事業計画は、私立学校及び本法人を取り巻く現況を的確に分析して、設置する各学校（園）が、それぞれの持つ個性や特色を最大限生かした教育研究活動を推進するために必要な条件を整備するとともに、本法人が掲げる長期ビジョン『地域と連携し、地域創生に貢献する（趣旨：地域や地域の人々と手を携え、魅力あふれた持続的な社会づくりに貢献する）』という理念との整合性にも十分配慮しながら、毎年度重点的に行うべき事業計画を策定するものです。

第2期中期計画(実施年度:令和3年度～令和7年度)の実施初年度にあたる令和3年度には、法人本部、各学校（園）及び常葉大学リハビリテーション病院が策定した中期計画に着手するとともに、学生、生徒、児童、園児及び教職員に対して安心・安全な教育（保育）・職場環境を提供するための新型コロナウイルス感染症予防対策の継続的な実施、コロナ禍により1年遅れのスタートとなりますが、「附属高校総合能力入試」制度（令和3年度の高校2年生から適用）の導入と安定的な制度構築を含め、以下の6つの重点事業計画を着実に推進していくこととします。

- (1) 第2期中期計画の着実な進展
- (2) 新型コロナウイルス感染症予防対策の継続的な実施
- (3) 大学及び短期大学における入学定員の適切な管理
- (4) 大学及び短期大学と附属3高校との高大接続教育の進展
- (5) 附属小学校、中学校及び高校の実効性ある募集活動の推進
- (6) 附属菊川高校校舎改築工事の推進

3. 管理・運営計画

(1) 規程体系の構築とガバナンスの充実

静岡県内で最大の私学である本法人が将来にわたり健全な発展を続けていくためには、時代の変化に即した適切なガバナンスを確保することが重要です。

このため、本法人では、第2期中期計画において、管理・運営に関する計画として、職員に分かりやすく使いやすい規程体系を構築し、これに基づく業務運営を推進することとしました。

令和2年度には学校法人常葉大学管理規則の全面的な見直しに着手し、学校法人常葉大学基本管理規則や学校法人常葉大学運営管理規則といった主要な規則を制定しましたが、令和3年度は継続してその整備と周知に努めてまいります。

具体的には、第1に、令和2年度に残された各種の規程について、制定した重要な規則にあわせて見直すことにより、法人の規程体系を構築するよう努めてまいります。

第2に、職員が業務を執行するに当たり、その理解度が深まるよう、規程体系の構築に係る取組みを広く職員に周知するよう努めてまいります。

第3に、規程の制定改廃を行ったときは、すみやかに Web 規程集に反映させるとともに、現行の規程の構成や掲載順序等を見直すことにより、職員が一層 Web 規程集を身近にかつ手軽に活用できるよう努めてまいります。

このように、規程体系の見直しを通じて、職員が業務を行うに当たり、その目的や根拠を常に意識し、説明責任を果たすことができるよう、法令遵守意識のさらなる高揚を図り、ガバナンスの充実に努めてまいります。

(2) 事務職員の人事制度の再構築

今後、予測困難な時代に柔軟に対応できる多様な人材を養成するため、現在の単線型人事制度を残しつつ、複数のキャリアパスを選択可能な複線型人事制度の導入を検討します。令和3年度は、人事部に人事政策担当を配置し、現行の制度の問題点を洗い出し、他法人の先進例の検証など新制度設計の調査を進めます。

(3) 自己点検・評価、認証評価、第三者評価、学校評価の推進

法人内各校（園は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するために教育研究活動等の状況について自己点検・評価、認証評価、第三者評価及び学校評価を行い、教育研究活動の継続的な質の保証を図るとともに自主的な改革・改善に引き続き取り組んでまいります。

(4) 監査機能の強化

監査については、監事、監査法人（公認会計士）、監査部（内部監査担当部門）がそれぞれの立場や観点からチェックを行う三様監査を実施しております。これらの監査の充実を図るため、監査体制、監査計画の見直しや監査結果の活用方策の検討を行います。さらに、監査の実効性を高めるために、三者の連携を図り、監査の質の向上と効率化に努めてまいります。

4. 財務計画

少子化の進展等により厳しい経営環境下にあります。充実した教育研究活動を支えるため、さらなる財務体質の健全化に努めてまいります。

財務基盤を強化し、永続的な経営を維持するため、以下の施策を進めることといたします。

(1) 財務基盤の強化

平成30年4月に新設した静岡草薙キャンパスの施設・設備を効率的に運用し、安定した經常収入を確保することで金融資産を積み上げ、充実した教育研究活動を支えるための強固な財務基盤を再構築してまいります。

また、将来の施設・設備計画に柔軟に対応できるよう減価償却引当特定資産の積立を行ってまいります。

併せて、超低金利下においても適切な資金運用を実施し、運用益を確保することを目指してまいります。

(2) 事業の効率的執行と経費の削減

教育研究経費及び管理経費については、事業別予算制度をもとに、事業執行の前段階においても慎重に精査の上、実施しております。

事業効果の再点検や、効果のない事業の抜本的見直しなど、引き続き事業の効率的執行と経費の節減に努めてまいります。

5. 施設・設備整備計画

学校施設は、学生・生徒・児童・園児が学習と生活の場として一日の大半を過ごす重要な場所であるばかりか、災害時には近隣住民の緊急避難先にもなる重要な施設としての性格も併せ持ちます。したがって、通常時においても緊急時においても安心・安全な施設としての機能を維持することを最優先するとともに、急激な少子化や急速な情報化の社会の進展など、様々な社会環境の変化に的確に対応できる教育研究施設として一層の整備の充実を図ります。

令和3年度は、学園施設整備（改築）中期計画に基づき附属菊川高等学校の改築工事を推進し、美術・デザイン棟及び体育館棟の建設を進めてまいります。

○ 令和3年度大型事業

(1) 菊川高等学校校舎等改築事業

- ・美術・デザイン棟、体育館棟改築 <令和3年8月完成予定>
- ・本館、北館、新館、美術棟解体 <令和4年4月完成予定>
- ・新校舎用備品購入

(2) ICT（情報通信技術）教育設備整備推進事業

- | | |
|------------------|-----------------------------------|
| * 常葉大学静岡草薙キャンパス | 無線 LAN 環境拡充事業
学生ホール等映像配信設備設置事業 |
| * 常葉大学静岡瀬名キャンパス | 無線 LAN 環境拡充事業 |
| * 常葉大学静岡水落キャンパス | 無線 LAN 環境拡充事業（本館・1号館） |
| * 常葉大学浜松キャンパス | 学内ネットワーク機器更新事業 |
| * 常葉大学教育学部附属橘小学校 | 校務用パソコン整備事業
大型掲示機器整備事業 |

6. 教育活動計画

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあつては人材こそ財産であり、次世代を担う人間を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、建学の精神や教育理念に則った特色ある教育研究活動を実践しつつ、コロナ禍にあつても社会や時代の要請に対応した新たな教育研究にも取り組むことによって理解と評価を得て、さらに安定した教学運営を行うことを目指し、令和3年度は、以下に掲げる教育活動計画を中心に推進します。

○ 大学・大学院、短期大学部

〈常葉大学・大学院〉

1. 教育力の向上と学生支援に関する計画

- (1) IR の整備とともに、教学マネジメント指針に沿って「学修者本位の教育」に向けて教育改革を推進します。
- (2) 教育力向上に向けた定例の FD・SD 研修会を継続して実施します。
- (3) 「主役は学生プロジェクト」の定着を図り、教職員と学生の協働を進めます。
- (4) 人生100年時代あるいは Society 5.0、さらにはウィズ/ポスト・コロナといった予測困難な時代を見据えたキャリア支援教育を推進します。

2. 研究推進に関する計画

- (1) 外部資金の獲得に向けて、取り組みの強化を継続します。
- (2) 学内研究者間の情報交換及び研究者間交流を促進します。

3. 入学者選抜及び同窓会との関係に関する計画

- (1) 新たに附属高校総合能力入試を開始し、高大接続教育を推進します。
- (2) ホームカミングデー等の行事を通して、卒業生と現役学生との交流を促します。

〈常葉大学短期大学部〉

1. 自己点検・評価体制の充実

- (1) 定期的な外部評価を実施できる体制を整備します。
- (2) 認証評価に向けた報告書の作成及び根拠資料の整理を行います。
- (3) 評価を受けてのPDCA サイクルを回せるFD・SD活動を推進します。

2. 学生支援体制の充実

- (1) 「主役は学生プロジェクト」の定着を図り、学生の満足度をさらに高めます。
- (2) ウィズ/ポスト・コロナという状況に対応したキャリア支援教育を推進します。

3. 教育研究活動の推進

- (1) 学習成果測定方法の見直し等、教育の質向上を目指した改善を行います。
- (2) 教員の研究活動状況を調査し、研究推進環境を整えます。

○ 高等学校、中学校

〈常葉大学附属常葉中学校・高等学校〉

1. 本校独自の魅力ある教育の創生

- (1) 「水落 One Campus 構想」を一層推進し、常葉大学（静岡水落キャンパス）と一体化した特色ある女子校としての発展を目指します。
- (2) 新しい学力観に即した学力を養成するとともに、ICTを有効活用した授業改善を積極的に取り組み、学習指導や進路指導を充実させます。
- (3) 学校行事、部活動、生徒会活動、ボランティア活動等を通して、生徒が主体的に活躍し成長できる場を提供します。

2. 教育連携の強化

- (1) 法人内を含む様々な教育機関や施設との連携による教育活動をさらに発展させ、本校のキャリア教育、学習指導、進路指導、課外活動等を充実させます。
- (2) 常葉大学及び常葉大学短期大学部との高大接続教育に対応した学力の向上と学習習慣の定着を図ります。

- (3) 常葉大学（静岡水落キャンパス）と連携して地域のイベント開催等に積極的に関与し、地域発展のために貢献します。

3. 実効性のある募集活動の推進

- (1) 広報委員会を中心に、効果的かつ計画的に生徒募集に取り組みます。
- (2) 参加者のニーズに応じた説明会や体験会を実施します。
- (3) 中学校、塾との繋がりを一層強めるとともに、PTA、母の会、同窓会、卒業生父母の会と生徒募集における協力体制を築きます。

〈常葉大学附属橋中学校・高等学校〉

1. 新たなる「学びの姿勢」への進展

- (1) 基礎学習を徹底させた上で、教科横断型の教育を実践していきます。
- (2) 問題発見や解決を通しながら、深い学びの過程への追及を図ります。
- (3) ICT を活用する教育を積極的に取り入れ、生徒自身が能力に合わせた学習が出来るような体制を構築します。

2. 進路指導と教員の資質向上のための計画

- (1) 進路指導の充実を図り、英数科を中心とした、進学実績の向上を図ります。
- (2) 高大連携のメリットを生かし、常葉大学及び常葉大学短期大学部への志願者増加を目指します。
- (3) 教員の資質向上のため、研鑽を積む姿勢、意識改革に努めます。

3. 募集活動の強化

- (1) アピールポイントを明確化し、本校の魅力を伝え、定員確保に努めます。
- (2) 生徒・保護者のニーズを意識した募集活動を展開します。
- (3) 高大連携を前面に出し、常葉大学及び常葉大学短期大学部へのマインドを高めます。

〈常葉大学附属菊川中学校・高等学校〉

1. 知的好奇心を育む授業等の充実

- (1) 知識に偏らない、知識を活用・融合する授業展開を工夫します。
- (2) 課外活動を利用して実践的な問題解決能力を磨きます。
- (3) ICT を活用して主体的な学びができるように工夫します。

2. 卒業生との連携教育

- (1) 卒業生が参加する行事を通じて、卒業生と現役生徒との交流を深めます。

3. 地域連携教育の充実

- (1) 菊川市とのフレンドシップ協定による「みらい学」の強化により、地域との連携を強め、地域に支えられる学校づくりに取り組みます。
- (2) ボランティア活動へ積極的に参加させ、地域とのつながりを大切にします。

○ 小学校、こども園

〈常葉大学教育学部附属橘小学校〉

1. 「生きる力」(確かな学力、たくましい心身、豊かな心) に重点をおいた指導

- (1) ICT を活用した教育を取り入れ、子どもの興味関心を生かした授業を行い、確かな学力を養います。
- (2) 体験活動や体育的活動を通して体力の向上を図るとともに、健康で安全な生活を身につけさせ、たくましい心身を養います。
- (3) 教育方針である「三方よし」(自分よし・相手よし・みんなよし) を実践し、豊かな心を育てます。

2. 授業力向上のための校内研修の活性化

- (1) 本校独自の学びのスタイルに ICT を取り入れた授業を行います。
- (2) 常葉大学教育学部との一層の連携強化を図り、授業力向上のための研究発表会を開催します。

3. 児童募集の強化

- (1) 学校説明会を見直すとともに、ホームページには学校紹介の動画を掲載します。

(2) 園訪問の機会を増やし、系列園ともつながりをさらに密にします。

〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこは幼稚園〉

1. 幼保連携型認定こども園としての安定した運営

- (1) 乳幼児期にふさわしい生活ができるよう、安心・安全で、魅力的な環境を提供します。
- (2) 日々の保育実践をPDCA サイクルで振り返り、より質の高い保育を推進します。
- (3) 保育記録、オンライン参観等 ICT を活用して、保育の理解につなげるとともに、効率の良い園運営を実施します。

2. 家庭や地域との密な連携

- (1) 多様な立場の保護者への説明責任を果たします。
- (2) 園開放等、地域に対する子育て支援に努め、園児募集に繋がります。

3. 法人内の各学校との連携

- (1) 常葉大学保育学部及び常葉大学短期大学部保育科との研修交流、実習生受け入れにより、職員の資質向上を図ります。
- (2) こども園と小学校との円滑な接続を推進します。
- (3) 両園合同研修、こども園拡大研修会を継続開催します。

〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちばな幼稚園〉

1. 幼保連携型認定こども園としての運営の充実

- (1) 課題に対する組織的な取り組み等、職員の協働態勢を推進します。
- (2) 職員の健康維持やワークライフバランスに対応します。

2. 子どもの健康・安全の確保

- (1) 子ども一人ひとりの健康状況の把握を重視します。
- (2) 子どもが安全に過ごせる園の環境づくりを推進します。
- (3) 職員間での適切な情報共有を推進します。

3. 充実した保育・教育活動の実施

- (1) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた質の高い保育及び教育活動を実践します。
- (2) 社会情勢の変化等も踏まえた、園行事の適切な保育・教育活動を実施します。

○ 附随事業

〈常葉大学リハビリテーション病院〉

1. 医療従事者等養成校との連携の推進

- (1) 医療従事者等の養成校との連携を深め、適切な臨床実習を実施します。

2. 組織の活性化

- (1) 安全で適正な医療提供体制の確保等、安定したリハビリテーション病院運営を遂行していくために、医師、看護師等必要とする医療従事者を確保します。